

- 5) 心膜炎 (心電図における ST 上昇や心嚢液貯留) で発症する症例が存在する。
- 6) 乾酪壊死を伴わない類上皮細胞肉芽腫が、心筋生検で観察される症例は必ずしも多くない。

註：表 1 の全身反応を示す検査所見に関しては、他臓器と同じく 6 項目中 2 項目以上認める必要がある。心臓サルコイドーシスでは、これらの検査所見の陽性率 (感度) が必ずしも高くなく、1 項目とした時期があったが、他臓器との整合性を保つために 2 項目以上とする。ただし Gallium-67 シンチグラフィーにおける集積は心臓に限らず、いずれかの臓器において著明な集積が認められれば陽性とする。

文 献

- 1) Sekiguchi M, Yazaki Y, Isobe M, et al: Cardiac sarcoidosis: Diagnostic, prognostic, and therapeutic considerations. *Cardiovasc Drugs Ther* 1996; 10: 495-510.
- 2) Sharma OP: Diagnosis of cardiac sarcoidosis. An imperfect science, a hesitant art. *Chest* 2003; 123: 18-9.
- 3) Roberts WC, McAllister HA Jr, Ferrans VJ: Sarcoidosis of the heart. A clinicopathologic study of 35 necropsy patients (group I) and review of 78 previously described necropsy patients (group II). *Am J Med* 1977; 63: 86-108.
- 4) 加藤靖周, 森本紳一郎, 平光伸也, 他: 診断の手引きを満たさないものの, 心臓サルコイドーシスが強く疑われた 2 症例. *日サ会誌* 1999; 19: 91-6.
- 5) Uemura A, Morimoto S, Hiramitsu S, et al: Positive rates of various clinical parameters in cardiac sarcoidosis. *Circ J* 2004; 68 (Suppl I): 582 (Abstr).
- 6) 植村晃久, 森本紳一郎: サルコイドーシスの症候: 心臓サルコイドーシス. *Mebio* 2004; 21: 83-9.
- 7) Valantine H, McKenna WJ, Nihoyannopoulos P, et al: A pattern of clinical and morphological presentation. *Br Heart J* 1987; 57: 256-63.
- 8) Uemura A, Morimoto S, Kato Y, et al: Relationship between basal thinning of the interventricular septum and atrioventricular block in patients with cardiac sarcoidosis. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis* 2005; 22: 63-5.
- 9) Morimoto S, Uemura A, Sugimoto K, et al: A proposal for diagnostic criteria of basal thinning of the interventricular septum in cardiac sarcoidosis (CS): A multicenter study. *Circ J* 2005; 70 (Suppl I): 215 (Abstr).
- 10) Matsumori A, Hara M, Nagai S, et al: Hypertrophic cardiomyopathy as a manifestation of cardiac sarcoidosis. *Jpn Circ J* 2000; 64: 679-83.
- 11) Yoshida Y, Morimoto S, Hiramitsu S, et al: Incidence of cardiac sarcoidosis in Japanese patients with high-degree atrioventricular block. *Am Heart J* 1997; 134: 382-6.
- 12) Yazaki Y, Isobe M, Hiramitsu S, et al: Comparison of clinical features and prognosis of cardiac sarcoidosis and idiopathic dilated cardiomyopathy. *Am J Cardiol* 1998; 82: 537-40.
- 13) Shimada T, Shimada K, Sakane T, et al: Diagnosis of cardiac sarcoidosis and evaluation of the effects of steroid therapy by gadolinium-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging. *Am J Med* 2001; 110: 520-7.
- 14) Uemura A, Morimoto S, Hiramitsu S, et al: Histologic diagnostic rate of cardiac sarcoidosis: Evaluation of endomyocardial biopsies. *Am Heart J* 1999; 138: 299-302.
- 15) Ishimaru S, Tsujino I, Takei T, et al: Focal uptake on ^{18}F -fluoro-2-deoxyglucose positron emission tomography images indicates cardiac involvement of sarcoidosis. *Eur Heart J* 2005; 26: 1538-43.
- 16) Arunabh S, Verma N, Brady TM: Massive pericardial effusion in sarcoidosis. *Am Fam Physician* 1998; 58: 660.
- 17) Chiu CZ, Nakatani S, Zhang G, et al: Prevention of left ventricular remodeling by long-term corticosteroid therapy in patients with cardiac sarcoidosis. *Am J Cardiol* 2005; 95: 143-6.
- 18) Tadamura E, Yamamuro M, Kubo S, et al: Effectiveness of delayed enhanced MRI for identification of cardiac sarcoidosis: comparison with radionuclide imaging. *Am J Roentgenol* 2005; 185: 105-115.

4. 皮膚病変の診断の手引き

多彩な臨床症状を呈するため¹⁻⁵⁾, サルコイドーシ

スの皮膚病変と診断するためには、組織学的に非乾酪壊死性類上皮細胞肉芽腫を認め、診断基準に基づいて、全身性に肉芽腫性変化が生じていることを臨床あるいは検査上証明しなければならない。また、他の肉芽腫性皮膚疾患やサルコイド反応を除外する必要がある。

1) 皮膚病変を強く示唆する臨床所見

福代の分類⁶⁾によって記載すると理解しやすい。これは、組織学的特徴を加味した臨床分類法で、1) 非特異的病変である結節性紅斑と、2) 特異的病変である結節型、局面型、びまん浸潤型、皮下型とその他のまれな病型からなる皮膚サルコイド、および3) 組織学的に肉芽腫とともに異物が証明される癬痕浸潤の3つに大別されている。以下の臨床所見を認め組織学的に証明されたものを皮膚病変ありとする。

(1) 皮膚サルコイド

- ① 結節型：隆起性病変で浸潤のある紅色の丘疹、結節である。
- ② 局面型：環状あるいは斑状の非隆起性病変である。環状皮疹は遠心性に拡大する病変で、中央部は正常皮膚色でやや萎縮性を呈し、辺縁は紅色でわずかに堤防状に隆起する。斑状病変は類円形あるいは不整形の紅斑である。
- ③ びまん浸潤型：しもやけに類似した皮疹で、暗紅色の色調で、びまん性に腫脹する。しもやけの好発部位である指趾、頬部、耳垂に好発する。
- ④ 皮下型：種々の大きさの弾性硬の皮下結節で多発することが多い。通常被覆皮膚は正常である。
- ⑤ その他
 - i) 苔癬様型：粟粒大の扁平小丘疹が集簇性に多発し、時に全身に播種状に出現する。時に毛孔一致性に生じる。
 - ii) 結節性紅斑様：結節性紅斑に類似した臨床像であるが、組織学的に類上皮細胞肉芽腫を認める病変である。
 - iii) 魚鱗癬型：魚のうろこ状の皮疹で、下腿に好発する。
 - iv) その他のまれな症状：乾癬様病変、疣贅様病変、白斑。

(2) 癬痕浸潤：外傷など外的刺激を受けた部位に

生じ、癬痕に応じて種々の臨床像を示す。膝蓋、肘頭、顔面に好発する。

(3) 結節性紅斑：淡紅色の有痛性皮下結節で下腿に好発する。

2) 組織学的所見

皮膚サルコイドでは、乾酪壊死を伴わない類上皮細胞肉芽腫が認められる⁷⁾。癬痕浸潤はさらに肉芽腫内に異物が存在する。結節性紅斑は他の原因によるものと同様に、隔壁脂肪織炎で肉芽腫性変化は認められない。

3) 除外診断

- i) 他の皮膚肉芽腫を除外する：環状肉芽腫、Annular elastolytic giant cell granuloma、リポイド類壊死、Melkerson-Rosenthal 症候群、顔面播種状粟粒性狼瘡、酒さ、皮膚結核など
- ii) 異物、癌などによるサルコイド反応。

文 献

- 1) 福代良一：サルコイドーシス。清寺 真，佐野 栄春，久保田淳他編 現代皮膚科学大系第 18 巻 中山書店 東京 1988；277-359。
- 2) 岡本祐之：サルコイドーシス。玉置邦彦総編集 最新皮膚科学大系第 9 巻 中山書店 東京 2002；258-270。
- 3) 岡本祐之（責任編集）：サルコイドーシスの皮膚病変を知る。Visual Dermatol. 2003；2：327-380。
- 4) English JC 3rd, Patel PJ, Greer KE：Sarcoidosis. J Am Acad Dermatol. 2001；44：725-743。
- 5) Mana J, Marcoval J, Graells J, et al：Cutaneous involvement in sarcoidosis. Relationship to systemic disease. Arch Dermatol. 1997；133：882-888。
- 6) 福代良一，仁木富三雄：皮膚科からみたサルコイドーシス。皮膚臨床。1960；2：730-741。
- 7) Ball NJ, Kho GT, Martinka M：The histologic spectrum of cutaneous sarcoidosis：a study of twenty-eight cases. J Cutan Pathol. 2004；31：160-168。

5. 神経・筋病変の診断の手引き

中枢神経・末梢神経・筋のいずれにも共通の診断基準として、原則として診断基準にのっとり診断するが、神経・筋病変を診断する場合は、下記の A、B、C の条項を使用してもよい。

A. 神経・筋組織診断群 [Definite]

- ① サルコイドーシスの神経・筋病変を示唆する臨

床所見がある (注 1)。

- ② 組織診断にて神経・筋組織内にサルコイドーシスに合致する所見を認める (注 2)。
- ③ 上記所見を伴った他の可能性のある疾患を除外できる (注 3)。

以上三点をすべて満たし、かつサルコイドーシス診断基準の全身反応を示す検査所見 (注 4)。(1)~(6) の 6 項目のうち 2 項目以上を満たす。但し、他の臨床所見を伴わない、isolated neurosarcoidosis の症例があることに十分注意して観察していくこと。

B. 神経・筋臨床診断群 [Probable]

- ① サルコイドーシスの神経・筋病変を示唆する臨床所見がある (注 1)。
- ② サルコイドーシスの他臓器病変に関する診断基準で組織診断が確定しており、かつサルコイドーシス診断基準の全身反応を示す検査所見 (注 4) (1)~(6) の 6 項目のうち 2 項目以上を満たす。
- ③ 上記所見を伴った他の可能性のある疾患を除外できる (注 3)。

以上三点をすべて満たすこと。

C. 神経・筋臨床診断群 [Possible]

- ① サルコイドーシスの神経・筋病変を示唆する臨床所見を有する (注 1) が、いずれの臓器においてもサルコイドーシスとして確定した組織診断を有しない。
- ② サルコイドーシス診断基準の全身反応を示す検査所見 (注 4) (1)~(6) の 6 項目のうち 2 項目以上を満たす。
- ③ 上記所見を伴った他の可能性のある疾患を除外できる (注 3)。

以上三点をすべて満たすこと。

注 1 サルコイドーシスの神経・筋病変を示唆する臨床所見

① 無症候性

患者の自覚的症狀としては無症候性であっても、画像を含めた検査のみにおいてサルコイドーシスの神経・筋病変が示唆されることがある。

② 症候性

②-1 中枢神経

a. 実質内肉芽腫性病変

- a-1 限局性腫瘍病変 (サルコイド結節が癒合して限局性腫瘍病変を形成)

視床下部・下垂体病変では、尿崩症、下垂体機能低下症などを呈する。

視交叉病変では両耳側半盲などを呈する。その他、頭痛、記憶力障害、失語症、片麻痺、感覚障害、視野障害などを呈する。

- a-2 びまん性散在性肉芽腫性病変 (脳実質内にサルコイド結節が散在)

痙攣発作、精神症状、記憶力障害、失語症、失行症、失認症、錐体路症状などを呈する。

a-3 脊髄病変

対麻痺、膀胱直腸障害、感覚障害、Brown-Séquard 症候群、円錐症候群などを呈する。

b. 髄膜病変

b-1 髄膜炎・髄膜脳炎

無症候性のことが多い。

急性、慢性の経過をとることもある。

頭痛、鬱血乳頭、痙攣、発熱はまれ。

b-2 肥厚性肉芽腫性硬膜炎

- c. 水頭症 (慢性髄膜炎による閉塞性、あるいは髄液の吸収障害による)

頭痛、記憶力障害、歩行障害などを呈する。

d. 血管病変

- d-1 血管炎 (精神症状、錐体路症状、記憶力症状、痴呆など)

- d-2 脳室周囲白質病変 (精神症状、痴呆など)

- d-3 静脈洞血栓症 (偽性脳腫瘍など)

e. 脳症

②-2 末梢神経

a. 脳神経麻痺

- a-1 顔面神経麻痺 (特に両側性に出現する場合は可能性が高い)

- a-2 舌咽・迷走神経障害 (嘔声、嚥下障害など)

- a-3 聴神経障害 (難聴、耳鳴、めまいなど)

- a-4 視神経障害 (視力障害など)

- a-5 三叉神経障害 (顔面の感覚障害、三叉神経痛など)

- a-6 嗅神経障害 (嗅覚異常など)

- a-7 その他の脳神経の障害 (眼球運動障害、複視など)

b. 脊髄神経麻痺

- b-1 多発性単神経炎

- b-2 多発神経炎 (大径線維を障害するパターン以外にも, small fiber neuropathy を生じることがある)
- b-3 単神経麻痺 (横隔神経麻痺による呼吸困難など)
- b-4 その他の障害: 神経根障害, 馬尾症候群など (膀胱直腸障害, 下肢脱力, 腰痛など)
- ②-3 筋
 - a. 急性・亜急性筋炎型 (近位筋優位の筋力低下, 筋自発痛, 筋把握痛, 発熱, ときに有痛性痙攣など)
 - b. 慢性ミオパチー (両側性近位筋優位, またはびまん性の筋力低下および筋萎縮, 緩徐進行性, ときに仮性肥大 (閉経後の女性に多い), 末梢神経障害を合併するときは遠位筋も強く障害される)
 - c. 腫瘤型ミオパチー (筋肉内腫瘤 (結節) を触知, 筋肉痛や筋力低下・筋萎縮は比較的まれ)

注 2 組織診断

組織生検, 手術あるいは剖検によって, 神経・筋に乾酪壊死を伴わない類上皮細胞肉芽腫が病理組織学的に認められる場合を陽性とする。

なお生検に関しては, MRI またはガリウムシンチグラフィを参考に生検を行うことにより診断の精度が向上する。

注 3 鑑別疾患

中枢神経病変に関する鑑別診断

- a. 脳血管障害: 多発性脳梗塞, Binswanger 病など
- b. 腫瘍性疾患: 神経膠腫, リンパ腫, 髄膜腫, 転移性脳腫瘍, lymphomatoid granulomatosis, multicentric Castleman's disease など
- c. 感染症: 結核, 真菌, 細菌, AIDS など
- d. 脱髄疾患: 多発性硬化症など
- e. 血管炎: 肉芽腫性血管炎, Wegener 肉芽腫症, 神経 Behçet 病, 神経 Sweet 病, 膠原病 (Sjögren 症候群等) など
- f. 薬剤性疾患: 薬剤性脳症など
- g. その他

末梢神経病変に関する鑑別診断

- a. ニューロパチー
 - a-1 炎症性ニューロパチー: ① Guillain-Barré 症候群, ② 慢性炎症性脱髄性多発性神経炎 (CIDP), ③ その他

- a-2 代謝性ニューロパチー: ① 糖尿病性, ② アルコール性, ③ 腎性, ④ その他
- a-3 遺伝性ニューロパチー
- a-4 全身疾患に伴うニューロパチー:
 - ① 血管炎 (結節性多発動脈炎, Wegener 肉芽腫, Churg-Strauss 症候群など)
 - ② 膠原病 (Sjögren 症候群, 慢性関節リウマチなど)
 - ③ 感染性 (Hansen 病, 結核, 真菌感染症, AIDS など)
 - ④ 圧迫性 (手根管症候群など)
 - ⑤ 薬剤性, 中毒性
 - ⑥ 免疫性や血液疾患にともなうもの (新生物随伴症候群など)
 - ⑦ その他のニューロパチーや脳神経障害を生じる病態
- b. 頸椎症, 腰椎症など脊椎症, その他の脊髄疾患
- c. 運動ニューロン疾患
- d. 末梢神経腫瘍

筋病変に関する鑑別診断

- a. ミオパチー
 - a-1 筋ジストロフィー
 - a-2 炎症性ミオパチー: ① 多発筋炎, ② 皮膚筋炎, ③ その他
 - a-3 代謝性ミオパチー: ① 甲状腺ミオパチー, ② ステロイドミオパチー, ③ その他
 - a-4 肉芽腫性ミオパチー:
 - ① 血管炎 (Wegener 肉芽腫, Churg-Strauss 症候群など)
 - ② 膠原病 (慢性関節リウマチ, 全身性進行性強皮症など)
 - ③ 炎症性腸疾患 (Crohn 病, 原発性胆汁性肝硬変など)
 - ④ 感染性ミオパチー (結核, 梅毒, Hansen 病, 真菌感染, AIDS など)
 - ⑤ 自己免疫性重複症候群 (重症筋無力症, 心筋症, 甲状腺炎, 胸腺腫などを合併)
 - ⑥ 無機物質 (ベリリウム, チタン, アルミニウム, ジルコニウムなど)
 - a-5 その他のミオパチー
- b. 運動ニューロン疾患: ① 筋萎縮性側索硬化症, ② 脊髄性筋萎縮症, ③ その他
- c. 末梢神経障害

注4 全身反応を示す検査所見

- (1) 両側肺門リンパ節腫脹
- (2) 血清 ACE 活性高値
- (3) ツベルクリン反応陰性
- (4) Gallium-67 citrate シンチグラフィーにおける著明な集積所見
- (5) 気管支肺胞洗浄検査でリンパ球増加または CD4/CD8 比高値
- (6) 血清あるいは尿中カルシウム高値

文 献

中枢神経病変

- 1) Christoforidis GA, Spickler EM, Recio MV, et al : MR of CNS Sarcoidosis: correlation of imaging features to clinical symptoms and response to treatment. *AJNR* 1999 ; 20 : 655-669.
- 2) Dumas JL, Valeyre D, Chapelon-Abric C, et al : Central nervous system sarcoidosis: follow-up at MR imaging during steroid therapy. *Radiology* 2000 ; 214 : 411-420.
- 3) Ferriby D, de Seze J, Stojkovic T, et al : Long-term follow-up of neurosarcoidosis. *Neurology* 2001 ; 57 : 927-929.
- 4) Stern BJ : Neurological complications of sarcoidosis. *Curr Opin Neurol* 2004 ; 17 : 311-316.
- 5) Spencer TS, Campellone JV, Maldonado I, et al : Clinical and magnetic resonance imaging manifestations of neurosarcoidosis. *Semin Arthritis Rheum* 2005 ; 34 : 649-661.

末梢神経病変

- 1) Hoitsma E, Sharma OP : Neurosarcoidosis. in Drent M and Costabel U ed, *Sarcoidosis. The European Monograph Vol 10*, Charlesworth Group, Wakefield,UK, 2005 : 164-187.
- 2) Stern BJ, Krumholz A, Johns C, et al : Sarcoidosis and its neurological manifestations. *Arch Neurol* 1985 ; 42 : 909-917.
- 3) Hoitsma E, Marziniak M, Faber CG, et al : Small fiber neuropathy in sarcoidosis. *Lancet* 2002 ; 359 : 2085-2086.
- 4) Gainsborough N, Hall SM, Hughes RA, et al : Sarcoid neuropathy. *J Neurol* 1991 ; 238 : 177-180.
- 5) Lacroix C, Plante-Bordeneuve V, Le Page L, et al : Nerve granulomas and vasculitis in sarcoid peripheral

neuropathy: a clinicopathological study of 11 patients. *Brain* 2002 ; 125 : 264-275.

筋病変

- 1) Hinterbuchner CN, Hinterbuchner LP : Myopathic syndrome in muscular sarcoidosis. *Brain* 1964 ; 87 : 355-366.
- 2) Silverstein A, Siltzbach LE : Muscle involvement in sarcoidosis. Asymptomatic, myositis, and myopathy. *Arch Neurol* 1969 ; 21 : 235-241.
- 3) Hewlett RH, Brownell B : Granulomatous myopathy: its relationship to sarcoidosis and polymyositis. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 1975 ; 38 : 1090-1099.
- 4) Wolfe SM, Pinals RS, Aelion JA, et al : Myopathy in sarcoidosis: clinical and pathologic study of four cases and review of the literature. *Semin Arthritis Rheum* 1987 ; 16 : 300-306.
- 5) Takanashi T, Suzuki Y, Yoshino Y, et al : Granulomatous myositis: pathologic re-evaluation by immunohistochemical analysis of infiltrating mononuclear cells. *J Neurol Sci* 1997 ; 145 : 41-47.
- 6) Yamamoto T, Nagira K, Akisue T, et al : Aspiration biopsy of nodular sarcoidosis of the muscle. *Diagn Cytopathol* 2002 ; 26 : 109-112.
- 7) Berger C, Sommer C, Meinck HM : Isolated sarcoid myopathy. *Muscle Nerve* 2002 ; 26 : 553-556
- 8) Otake S : Sarcoidosis involving skeletal muscle: imaging findings and relative value of imaging procedures. *AJR Am J Roentgenol* 1994 ; 162 : 369-375.
- 9) Sohn HS, Kim EN, Park JM, et al : Muscular sarcoidosis: Ga-67 scintigraphy and magnetic resonance imaging. *Clin Nucl Med* 2001 ; 26 : 29-32.

6. その他の臓器病変の診断の手引き

その他の臓器病変とは、肺、肺門リンパ節、眼、心臓、皮膚、神経・筋以外の臓器病変を指し、肝臓、脾臓、骨髄、腎臓、食道、胃、腸、膵臓、胆嚢、胆道、腹腔内リンパ節、表在性リンパ節、縦隔リンパ節、甲状腺、耳下腺、鼻腔粘膜、扁桃、咽頭、喉頭、骨、関節、生殖器病変などを指す。

- 1) その他の臓器病変を強く示唆する臨床所見・検査所見

1. 肝病変：肝機能障害、腹腔鏡で肝表面に結節、腹部超音波、腹部 CT で肝多発性低吸収域、

MRI 異常所見

2. 脾病変：脾腫，脾機能亢進症，腹腔鏡で脾表面に結節，腹部超音波，腹部 CT で脾多発性低吸収域，MRI 異常所見，Gallium-67 citrate シンチグラフィーで脾異常集積
 3. 骨髄病変：白血球減少，貧血，汎血球減少
 4. 腎病変：腎機能障害，高カルシウム血症，腎尿路結石，腹部 CT，MRI で腎腫瘤
 5. 消化器病変：潰瘍，粘膜肥厚，隆起などの消化管透視，内視鏡異常所見，時に嚥下障害，吐血，下血
 6. 膵病変：腹部超音波，腹部 CT，MRI で膵異常所見，血清 amylase 高値，ERCP 異常所見，Gallium-67 citrate シンチグラフィーで膵異常集積
 7. 腹腔内リンパ節病変：腹部超音波，CT で腹腔内リンパ節腫大，Gallium-67 citrate シンチグラフィーで腹腔内リンパ節異常集積，リンパ節腫大に伴う ERCP 異常所見
 8. 胆道病変：胆道病変に伴う ERCP 異常所見
 9. リンパ節病変：表在性リンパ節腫大，あるいは無症候性に Gallium-67 citrate シンチグラフィーでリンパ節異常集積，縦隔リンパ節腫大
 10. 甲状腺病変：甲状腺腫，甲状腺機能亢進，機能低下
 11. 耳下腺病変：耳下腺腫大，Gallium-67 citrate シンチグラフィーで耳下腺異常集積
 12. 上気道病変：鼻閉，鼻腔粘膜異常，扁桃腫大，咽頭腫瘤，嗄声，喉頭鏡異常所見
 13. 骨病変：骨痛，骨 X 線像異常（骨梁減少，のう胞状骨透亮像），MRI 異常所見，骨シンチグラフィー，Gallium-67 citrate シンチグラフィーで骨異常集積
 14. 関節病変：急性関節炎症状，慢性関節炎症状（X 線像で関節の変形，破壊を伴うこともある）
 15. 生殖器病変：乳腺，子宮，精巣，精巣上体，精索などの生殖器腫瘤
- 2) 除外診断
- (1) 原因既知あるいは別の病態，例えば結核，悪性リンパ腫，その他のリンパ増殖性疾患，原発性，転移性悪性腫瘍などを除外する。
 - (2) 異物，癌などによるサルコイド反応を除外す

る。

文 献

- 1) 立花暉夫：5 肝臓・脾臓・消化器 第 3 章サルコイドーシスの臓器病変，サルコイドーシスとその他の肉芽腫性疾患 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会編，安藤正幸，四元秀毅監修 克誠堂出版，東京，2006：94-101.
- 2) 上野光博，下条文武，鈴木栄一：6 腎臓・泌尿器 第 3 章サルコイドーシスの臓器病変，サルコイドーシスとその他の肉芽腫性疾患 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会編，安藤正幸，四元秀毅監修 克誠堂出版，東京，2006：102-106.
- 3) 森下宗彦：4 内分泌系 第 3 章サルコイドーシスの臓器病変，サルコイドーシスとその他の肉芽腫性疾患 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会編，安藤正幸，四元秀毅監修 克誠堂出版，東京，2006：88-92.
- 4) 山口哲生：9 その他の臓器病変 I 上気道病変，II 骨病変，III 関節病変 第 3 章サルコイドーシスの臓器病変，サルコイドーシスとその他の肉芽腫性疾患 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会編，安藤正幸，四元秀毅監修 1 克誠堂出版，東京，2006：126-133.
- 5) 立花暉夫：サルコイドーシスの全国臨床統計。日本臨牀 1994；52：1508-1515.

委員会（サルコイドーシス診断基準改訂委員会）の構成

1. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会診断基準改訂委員

委員長	津田富康
委員	石原麻美，岡本祐之，大原國俊，折津愈，杉崎勝教，志摩 清，岳中耐夫，立花暉夫，長井苑子，平賀洋明，森本紳一郎，山口哲生
2. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業びまん性肺疾患調査研究班

班 長	貫和敏博
班 員	折津 愈，杉崎勝教
3. 専門部会
 - 1) 呼吸器部会（日本呼吸器学会）
 - 2) 循環器部会（日本心臓病学会）
 - 3) 眼科部会（日本眼科学会）
 - 4) 皮膚科部会（日本皮膚科学会）

5) 神経・筋部会 (日本神経学会)

1) 呼吸器部会

工藤翔二, 貫和敏博, 永井厚志, 曾根三郎, 西村正治, 久保恵嗣 (日本呼吸器学会常任理事)

千田金吾, 石坂彰敏, 長谷川好規, 吾妻安良太, 海老名雅仁, 小倉高志, 菅 守隆, 杉山幸比古, 田口善夫, 谷口博之, 長井苑子, 松原 修, 桑野和善, 林 清二, 吉澤靖之 (日本呼吸器学会びまん性肺疾患学術部会)

2) 循環器部会

委員: 森本紳一郎, 岡本 洋, 土田哲人, 鈴木 忠, 廣江道昭, 和泉 徹, 矢崎善一, 後藤紘司, 徳田 衛, 菱田 仁, 植村晃久, 平光伸也, 松森 昭, 寺崎文生, 中谷 敏

外部評価委員: 本田 喬, 伊藤 宏, 百村伸一, 大西 哲

3) 眼科部会

日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会委員 石原麻美, 大原國俊

日本眼炎症学会委員 臼井正彦, 大黒伸行, 大野重昭, 岡田アナベルあやめ, 沖波 聡, 蕪城俊克, 川島英俊, 幸野敬子, 後藤 浩, 南場研一, 望月 学

4) 皮膚科部会

岡本祐之, 相場節也, 佐藤伸一, 土田哲也, 橋本 隆, 古江増隆, 水谷 仁, 山西清文, 山本明美, 渡辺晋一

5) 神経・筋部会

作田 学, 西山和利, 熊本俊英, 飯塚高冶, 折津 愈

研究成果の刊行に関する一覧表

平成 19 年度 研究報告

英語論文 (48 報)

1. Airway Inflammation Responses To Oxidative Stress Induced By Low-Dose Diesel Exhaust Particle Exposure Differ Between Mouse Strains. *Exp Lung Res*, 33: 227-244, 2007.
2. Enomoto T, Azuma A, Matsumoto A, Nei T, Fujita K, Hattori K, Saito Y, Abe S, Usuki J, and Kudoh S. Preventive effect of sulfamethoxazole-trimethoprim on *Pneumocystis jiroveci* pneumonia in patients with interstitial pneumonia. *Inter Med*, (in press) 2007.
3. Morimoto T, Azuma A, Abe S, Usuki J, Kudoh S, Sugisaki K, Oritsu M, Nukiwa T. Epidemiology of sarcoidosis in Japan. *Eur Respir J*, (in press) 2008.
4. Y Saito, T Nei, S Abe, J Usuki, A Azuma, T Nakayama, Y Fukuda, S Kudo. A Case of Bucillamine-induced Interstitial Pneumonia with Positive Lymphocyte Stimulation Test for Bucillamine using Bronchoalveolar Lavage Lymphocyte. *Inter Med* 46 (20): 1739-1744, 2007.
5. Azuma A, Kudoh S. High Prevalence of Drug-induced Pneumonia in Japan. *Japan Medical Association Journal (JMAJ)* 50(6): 1-7, 2007.
6. Madoiwa S, Someya T, Hironaka M, Kobayashi H, Ohmori T, Minuro T, Sugiyama Y, Morita T, Nishimura Y, Tarumoto T, Ozawa K, Saito K, Sakata Y. Annexin 2 and hemorrhagic disorder in vascular intimal carcinomatosis. *Thrombosis Res.* 1007; 119: 229-40.
7. Tajima S, Bando M, Ohno S, Sugiyama Y, Oshikawa K, Tominaga S-I, Itoh K, Takada T, Suzuki E, Gejyo F. ST2 gene induced by type2 helper T cell (Th2) and proinflammatory cytokine stimuli may modulate lung injury and fibrosis. *Exp Lung Res.* 2007; 33: 81-97.
8. Sakurai J, Hattori N, Nakajima M, Moriya T, Suzuki T, Yokoyama A, Kohno N. Differential expression of the glycosylated forms of MUC1 during lung development. *Eur. J. Histochem* 51(2): 95-102, 2007
9. Kadowaki T, Hamada H, Yokoyama A, Abe M, Nishimura K, Kohno N, Inata J, Kuraoka T, Moritani C, Higaki J. Significance of serum uric acid in patients with chronic respiratory failure treated with non-invasive positive pressure ventilation. *Intern Med* 46(11): 691-698, 2007
10. Shoda H, Nishino R, Nakashima T, Ishikawa N, Haruta Y, Hattori N, Naka T, Kohno N. Overproduction of collagen and diminished SOCS1 expression are causally linked in fibroblasts from idiopathic pulmonary fibrosis. *Biochem Biophys Res Commun* 353(4): 1004-10, 2007
11. Suzuki S, Sugawara T, Tabata T, Oishi H, Niikawa H, Kondo T: Sivelestat Reduces Reperfusion Injury of Lungs Harvested From Endotoxin-primed Rats by Inhibition of Neutrophil-mediated Inflammation. *J Heart Lung Transplant* 26: 370-375, 2007
12. Otsuka K, Terasaki F, Eishi Y, Shimomura H, Ogura Y, Horii T, Isomura T, Suma H, Kitaura Y. Cardiac sarcoidosis underlies idiopathic dilated cardiomyopathy. *Circ J.* 2007 Dec; 71(12): 1937-41.
13. Furuiye M, Miyake S, Miyazaki Y, Ohtani Y, Inase N, Umino T, Yoshizawa Y. Effect of cigarette smoking on the development of murine chronic pigeon breeder's lung The difference between a short-term and a long-term exposure. *J Med Dent Sci* 2007; 54: 87-95
14. Tsuchiya K, Inase N, Ichinose S, Usui Y, Miyazaki Y, Ohtani Y, Ando N, Akashi T, Kondoh Y, Taniguchi H, Yoshizawa Y. Elemental analysis of inorganic dusts in lung tissues of interstitial pneumonias. *J Med Dent Sci* 2007; 54: 9-16
15. T Arai, Y Inoue, Y Eishi, S Yamamoto, M Sakatani. Propionibacterium acnes in granulomas of a patient with necrotising sarcoid granulomatosis. *Thorax* (in press) 2007
16. Hirata K, Sugame Y, Ikura Y, Ohsawa M, Inoue Y, Yamamoto S, Kitaichi M, Ueda M. Enhanced mast cell chymase expression in human Idiopathic interstitial pneumonia. *Int J Mol Med.* 19: 565-70, 2007
17. Huqun, Izumi S, Miyazawa H, Ishii K, Uchiyama B, Ishida T, Tanaka S, Tazawa R, Fukuyama S, Tanaka T, Nagai Y, Yokote A, Takahashi H, Fukushima T, Kobayashi K, Chiba H, Nagata M, Sakamoto S, Nakata K, Takebayashi Y, Shimizu Y, Kaneko K, Shimizu M, Kanazawa M, Abe S, Inoue Y, Yoshimura K, Takenoshita S, Kudo K, Tachibana

- T, Nukiwa T, Hagiwara K. Mutations in type IIb sodium phosphate co-transporter (SLC34A2) cause pulmonary alveolar microlithiasis. *Am J Respir Crit Care Med.* 175 : 263-268, 2007.
18. Hayashida M, Seyama K, Inoue Y, Fujimoto 1K, Kubo K. Respiratory failure research group of the Japanese ministry of health, labour, and welfare. The epidemiology of lymphangioliomyomatosis in Japan : A nationwide cross-sectional study of presenting features and prognostic factors. *Respirology* 12 : 523-30, 2007.
 19. Sugama Y, Ikura Y, Yoshimi N, Suekane T, Kitabayashi C, Nakagawa M, Ohsawa M, Kitaichi M, Yamamoto S, Inoue Y, Hirata K, Ueda M. Enhanced expression of angiotensin II type I receptor in usual interstitial pneumonia. *Osaka City Med J*, (in press)
 20. Kai Y, Yoneyama H, Koyama J, Hamada K, Kimura H, Matsushima K. Treatment with chondroitinase ABC alleviates bleomycin-induced pulmonary fibrosis. *Med Mol Morphol.* 40(3) : 128-40, 2007.
 21. Ueha S, Yoneyama H, Hontsu S, Kurachi M, Kitabatake M, Abe J, Yoshie O, Shibayama S, Sugiyama T, Matsushima K. CCR7 mediates the migration of Foxp3+ regulatory T cells to the paracortical areas of peripheral lymph nodes through high endothelial venules. *J Leukoc Biol.* 82(5) : 1230-8, 2007.
 22. Nakaya I, Wada T, Furuichi K, Sakai N, Kitagawa K, Yokoyama H, Ishida Y, Kondo T, Sugaya T, Kawachi H, Shimizu F, Narumi S, Haino M, Gerard C, Matsushima K, Kaneko S. Blockade of IP-10/CXCR3 promotes progressive renal fibrosis. *Nephron Exp Nephrol.* 107(1) : e12-21, 2007.
 23. Wada T, Sakai N, Matsushima K, Kaneko S. Fibrocytes : a new insight into kidney fibrosis. *Kidney Int.* 72(3) : 269-73, 2007.
 24. Ishida Y, Kimura A, Kondo T, Hayashi T, Ueno M, Takakura N, Matsushima K, Mukaida N. Essential roles of the CC chemokine ligand 3-CC chemokine receptor 5 axis in bleomycin-induced pulmonary fibrosis through regulation of macrophage and fibrocyte infiltration. *Am J Pathol.* 170(3) : 843-54, 2007.
 25. Ueha S, Murai M, Yoneyama H, Kitabatake M, Imai T, Shimaoka T, Yonehara S, Ishikawa S, Matsushima K. Intervention of MAdCAM-1 or fractalkine alleviates graft-versus-host reaction associated intestinal injury while preserving graft-versus-tumor effects. *J Leukoc Biol.* 81(1) : 176-85, 2007.
 26. Nishioka Y, Manabe K, Kishi J, Wang W, Inayama M, Azuma M and Sone S. CXCL9 and 11 in patients with pulmonary sarcoidosis : a role of alveolar macrophages. *Clin Exp Immunol* 149 : 317-326, 2007.
 27. Azuma M, Nishioka Y, Aono Y, Inayama M, Makino H, Kishi J, Shono M, Kinoshita K, Uehara H, Ogushi F, Izumi K, Sone S. Role of α 1-acid glycoprotein in therapeutic antifibrotic effects of imatinib *plus* macrolides in mice. *Am J Respir Crit Care Med.* (in press)
 28. Ebina M. TGF- β in pulmonary fibrosis. *In TGF- β in Cancer Therapy. Part III TGF- β in inflammation and fibrosis.* Jakowlew SB ed. Humana Press, New Jersey, pp 569-78, 2007.
 29. Ebina M. Remodeling of airway walls in fatal asthmatics decreases lymphatic distribution ; beyond thickening of airway smooth muscle layers. *Allergology International* (in press)
 30. Sekiya K, Hojo T, Yamada H, Toyama K, Ryo H, Kimura K, Taniguchi M, Homma S : Pneumoperitoneum recurring concomitantly with asthmatic exacerbation. *Intern Med* : in press.
 31. Sekiya K, Sakai T, Homma S, Tojima H : Pulmonary tuberculosis accompanied by transient increase in serum carcinoembryonic antigen level with tuberculous empyema drainage. *Intern Med* : in press.
 32. Izumikawa K, Ohtsu Y, Kawabata M, Takaya H, Miyamoto A, Sakamoto S, Kishi K, Tsuboi E, Homma S, Yoshimura K : Clinical efficacy of micafungin for chronic pulmonary aspergillosis. *Med Mycol* 45 : 273-278, 2007
 33. Nishiyama O, Taniguchi H, Kondoh Y, Kimura T, Kato K, Ogawa T, Watanabe F, Arizono S. Dyspnoea at 6-min walk test in idiopathic pulmonary fibrosis : Comparison with COPD. *Respiratory Medicine* 101 : 833-838, 2007
 34. Tsuchiya K, Inase N, Ichinose S, Usui Y, Miyazaki Y, Ohtani Y, Ando N, Akashi T, Kondoh Y, Taniguchi H and Yoshizawa Y. Elemental analysis of inorganic dusts in lung tissues of interstitial pneumonias. *Journal of Medical and Dental Sciences* 54 : 9-16, 2007
 35. Miyazawa, H., Kato, M., Awata, T., Kohda, M., Iwasa, H., Koyama, N., Tanaka, T., Huqun, Kyo, S., Okazaki, Y. and Hagiwara, K. Homozygosity haplotype allows a genomewide search for the autosomal segment shared among patients. *Am J Hum Genet* 80 : 1090-102, 2007.
 36. Yamada M, Kuwano K, Maeyama T, Yoshimi M, Hamada N, Fukumoto J, Egashira K, Hiasa K, Takayama K,

- Nakanishi Y. Gene transfer of soluble transforming growth factor type II receptor by in vivo electroporation attenuates lung injury and fibrosis. *J Clin Pathol* 60(8): 916-20, 2007.
37. Matsui T, Inui N, Suda T, Chida K.: Anti-endothelial cell antibodies in patients with interstitial lung diseases. *Respir Med* (in press), 2007
 38. Yamada M, Kuwano K, Maeyama T, Yoshimi M, Hamada N, Fukumoto J, Egashira K, Hiasa K, Takayama K, Nakanishi Y. Gene transfer of soluble transforming growth factor type II receptor by in vivo electroporation attenuates lung injury and fibrosis. *J Clin Pathol* 60: 916-20, 2007.
 39. Yoshikawa, M., N. Sukoh, K. Yamazaki, K. Kanazawa, S. Fukumoto, M. Harada, E. Kikuchi, M. Munakata, M. Nishimura, and H. Isobe. Diagnostic value of endobronchial ultrasonography with a guide sheath for peripheral pulmonary lesions without x-ray fluoroscopy. *Chest* 131(6): 1788-93, 2007.
 40. Yokouchi, H., K. Yamazaki, I. Kinoshita, J. Konishi, H. Asahina, N. Sukoh, M. Harada, K. Akie, S. Ogura, T. Ishida, M. Munakata, H. Dosaka-Akita, H. Isobe, and M. Nishimura. Clinical benefit of readministration of gefitinib for initial gefitinib-responders with non-small cell lung cancer. *BMC Cancer* 7: 51, 2007.
 41. Wang, X., Y. Ohtsuka, K. Kimura, H. Kaji, J. Saito, Y. Tanino, T. Ishida, and M. Munakata. Mannose-binding lectin gene polymorphisms and the development of coal worker's pneumoconiosis. *Am J Ind Med* in press, 2007.
 42. Takahashi, T., I. Wada, Y. Ohtsuka, M. Munakata, Y. Homma, and Y. Kuroki. Autoantibody to alanyl-tRNA synthetase in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. *Respirology* 12(5), 2007.
 43. Tachihara, M., T. Ishida, K. Kanazawa, A. Sugawara, K. Watanabe, K. Uekita, H. Moriya, K. Yamazaki, F. Asano, and M. Munakata. A virtual bronchoscopic navigation system under X-ray fluoroscopy for transbronchial diagnosis of small peripheral pulmonary lesions. *Lung Cancer*, 2007.
 44. Shinagawa, N., K. Yamazaki, Y. Onodera, F. Asano, T. Ishida, H. Moriya, and M. Nishimura. Virtual bronchoscopic navigation system shortens the examination time—feasibility study of virtual bronchoscopic navigation system. *Lung Cancer* 56(2): 201-6, 2007.
 45. Saito, J., S. Sato, H. Hasunuma, Y. Ishimaru, H. Kanegae, S. Kudo, and M. Munakata. Off-line fractional exhaled nitric oxide measurement is useful to screen allergic airway inflammation in an adult population. *J Asthma* in press, 2007.
 46. Kabuyama, Y., K. Oshima, T. Kitamura, M. Homma, J. Yamaki, M. Munakata, and Y. Homma. Involvement of selenoprotein P in the regulation of redox balance and myofibroblast viability in idiopathic pulmonary fibrosis. *Genes Cells* 12(11): 1235-44, 2007.
 47. Ishikawa, K., H. Kaneko, M. Oikawa, T. Ishii, M. Yoshikawa, O. Yamaguchi, S. Ishikawa, M. Mitsugi, M. Munakata, and Y. Maruyama. Pulmonary capillary bleeding in a patient with severe left ventricular failure after acute myocardial infarction under anti-thrombotic therapy. *Intern Med* 46(11): 721-6, 2007.
 48. Ioue, K., X. Wang, J. Saito, Y. Tanino, T. Ishida, D. Iwaki, T. Fujita, S. Kimura, and M. Munakata. Plasma UGRP1 levels are associated with its promoter G-112A polymorphism and the severity of asthma. *Allergol Int* (in press), 2007

日本語論文 (78報)

1. 前田裕行, 河野修興 膠原病における感染症とその対策 *呼吸器科* 12: 278-282, 2007
2. 河野修興, 久保恵嗣, 井上義一, 小山徹, 坂口文 薬剤性肺炎をめぐって *日本内科学会雑誌* 96(9): 1168-1186, 2007
3. 河野修興 呼吸器疾患のバイオマーカー *内科学第9版* 645-647, 2007
4. 横山彰仁, 河野修興 薬剤誘起性肺炎 *呼吸器疾患最新の治療 2007-2009* 349-351, 2007
5. 石川暢久, 河野修興 薬剤性肺障害について *広島市内科医会報* (60): 8-14, 2007
6. 持丸 博, 川本雅司, 福田 悠, 工藤翔二: 急性好酸球性肺炎と慢性好酸球性肺炎の臨床病理的相違. *日呼吸会誌* 45: 223-232, 2007
7. 小田島奈央, 別役智子, 南須原康行, 伊藤智雄, 福田 悠, Robert M. Senior, 西村正治: 間質性肺炎における EMMPRIN 発現. *分子呼吸器病* 11: 75-79, 2007
8. 高久多希朗, 根井貴仁, 斉藤良信, 阿部信二, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 高橋美紀子, 中山智子, 福田 悠: CPC 日常診療から学ぶ. 肺癌合併 ANCA 関連間質性肺炎で急性増悪をきたした 1 剖検例. *The Lung Prospective*. 15: 258-264, 2007

9. 中山智子, 福田 悠: びまん性肺疾患の分類と診断. びまん性肺疾患の病理診断の問題点. 特集: びまん性肺疾患: 病態に基づいた最新治療. 内科 (総説) 99: 208-217, 2007
10. 福田 悠: 薬剤性肺障害の病理. 特集: 薬剤性肺障害のすべて. 成人病と生活習慣病 (総説) 37: 295-300, 2007
11. 西岡安彦, 岸 潤, 曾根三郎. 間質性肺炎に対する新治療. 呼吸 26(4): 329-337, 2007.
12. 西岡安彦, 東 桃代, 曾根三郎. 百日咳の診断と治療について. The Lung perspectives. 15(2): 108-109, 2007.
13. 青野純典, 西岡安彦, 曾根三郎. 間質性肺炎をめぐる最近の話題—増殖因子とその受容体—. The Lung perspectives. 15(4): 30-35, 2007.
14. 新井 徹, 井上義一, 安藤性實, 井上幸治, 露口一成, 鈴木克洋, 林 清二, 北市正則, 審良正則, 坂谷光則. 胸部CTにて多発性リング状陰影 (“reversed halo sign”) を呈した特発性器質化肺炎の1例. 日本呼吸器学会雑誌. 45: 621-626, 2007
15. 井上義一. 肺胞蛋白症. Medicina 44: 330-331, 2007
16. 井上義一, 審良正則, 坂谷光則. アスベスト肺の臨床診断. 最新医学. 62: 44-51, 2007.
17. 井上義一, 新井 徹, 大塚淳司, 肺胞蛋白症の診断と治療. 内科. 99: 279-286, 2007.
18. 大家晃子, 井上義一. リンパ脈管筋腫症. In 工藤翔二, 中田紘一郎, 貫和敏博編. 呼吸器疾患の最新の治療 2007-2009. 南江堂, P 318-320, 2007.
19. 中田 光, 井上義一, 高田俊範, 寺田正樹, 新井 徹, 坂谷光則, 田澤立之, 貫和敏博. 肺胞蛋白症の臨床. The Lung perspective. 15: 59-63, 2007.
20. 中田 光, 井上義一, 高田俊範, 寺田正樹, 新井 徹, 坂谷光則, 田澤立之, 貫和敏博, 檜澤伸之, 山口悦郎, 江田良輔, 土橋佳子, 田中直彦, 笠原靖紀. わが国の特発性肺胞蛋白症の病勢, 予後, GM-CSF 吸入療法の Up-to-date. 分子呼吸器病, 11(1)72-74, 2007
21. 井上義一. リンパ脈管筋腫症 特集 COPD と鑑別を要する疾患・合併しうる疾患 COPD Frontier, 6: 74-79, 2007
22. 井上義一. じん肺症 今日の診断基準, P. 54-55, 南江堂, 2007
23. 井上義一. 慢性ペリウム肺, 慢性ペリウム症 今日の診断基準, P. 56-57, 南江堂, 2007
24. 井上義一. 間質性肺炎・治療 間質性肺炎の合併症とその管理の実際. Medical Practice. 24: 1071-1077, 2007.
25. 藤井ゆみ, 臼井 裕, 今野和典, 新 謙一, 大谷義夫, 稲瀬直彦, 田中健彦, 吉澤靖之: マコモズミ (黒穂胞子 smut spores) による過敏性肺炎の1例 日呼吸会誌 2007; 45(4): 344-348
26. 貝田勇介, 須田隆文, 榎本紀之, 中村祐太郎, 乾 直輝, 佐藤 潤, 永山雅晴, 妹川史朗, 田村亮治, 早川啓史, 千田金吾: 外科的肺生検を施行した膠原病患者における細気管支病変の臨床病理学的検討. Therapeutic Research 28(8): 1636-1638, 2007.
27. 千田金吾: 【びまん性肺疾患 病態に基づいた最新治療】特発性間質性肺炎の分類と診断 特発性間質性肺炎の病型分類の変遷と現状とその問題点. 内科 99(2): 223-228, 2007.
28. 須田隆文, 千田金吾, 大西一巧: Imatinib (グリベック) による肺障害. 成人病と生活習慣病 37(3): 357-362, 2007.
29. 中村裕太郎, 千田金吾: 間質性肺炎の薬物療法の進め方 特発性間質性肺炎—ガイドラインに基づいて—. Medical Practice 24(6): 1041-1047, 2007.
30. 古澤春彦, 稲瀬直彦, 吉澤靖之, 鈴木好美, 田島あすか, 石下由紀, 内田圭介, 江石義信: IL-2 mRNA 定量によるアクネ菌および結核菌に対するサルコイドーシス患者の Th1 免疫反応性の検討, サルコイドーシス/肉芽腫性疾患 (1345-0565) 27 巻 Suppl. Page 35 (2007.10)
31. 在間未佳, 山口哲生, 山田嘉仁, 米満勤, 藁谷正明, 江石義信: 脊髄内視鏡で組織診断し, PAB 抗体染色が陽性であった神経サルコイドーシスの2症例, サルコイドーシス/肉芽腫性疾患 (1345-0565) 27 巻 Suppl. Page 34 (2007.10)
32. 新井愛子, 石川理恵, 守屋敦子, 森本耕三, 神宮浩之, 安藤常浩, 生島壮一郎, 武村民子, 折津愈, 江石義信: ミノサイクリン (MINO) が著効した頸部リンパ節サルコイドーシスの一例, サルコイドーシス/肉芽腫性疾患 (1345-0565) 27 巻 Suppl. Page 33 (2007.10)
33. 森本耕三, 坂本 徹, 神宮浩之, 安藤常浩, 生島壮一郎, 折津 愈: 尿崩症と視床下部一下垂体—性腺系の機能異常を呈したサルコイドーシスの1例, 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 27(1): 43-47, 2007
34. 江石義信: 微生物と呼吸器疾患—宿主反応の多様性: サルコイドーシス—細胞壁欠失型アクネ菌の細胞内潜伏感染とその内因性活性化に伴う過敏性免疫反応, 呼吸器科 (1347-0051) 12 巻 1 号 Page 20-29 (2007.07)
35. 江石義信: 肉芽腫性肺疾患と病原微生物: サルコイドーシスとアクネ菌 (Propionibacterium acnes), 結核 (0022-9776) 82 巻 4 号 Page 339 (2007.04)

36. 菅 守隆：過敏性肺炎:呼吸器疾患の最新の治療 2007-2009 南江堂 p 328-331, 2007
37. 菅 守隆：BOOP：呼吸器疾患—state of arts—医学のあゆみ p 262-264, 2007
38. 菅 守隆：夏型過敏性肺炎から学んだこと化学療法の領域 23 (4)：547-553, 2007
39. 菅 守隆：医事新報夏かぜと過敏性肺炎 4346：89, 2007
40. 菅 守隆：過敏性肺炎：呼吸器 common disease の診療「気管支喘息のすべて」文光堂 p 344-347, 2007
41. 菅 守隆：リウマチ膠原病に伴う肺病変：リウマチ膠原病—基礎とトピックス熊本膠原病研究会記念誌 山本哲郎他編集 p 31-34, 2007
42. 谷口博之 びまん性肺疾患—病態に基づいた最新治療<特発性間質性肺炎の分類と診断>特発性肺線維症の急性増悪の診断と治療 内科 99：229-235, 2007
43. 片岡健介, 谷口博之 急性呼吸不全の終末期医療 ICUとCCU 31：173-181, 2007
44. 谷口博之, 近藤康博, 木村智樹, 西山理, 加藤景介, 片岡健介, 渡辺文子, 有菌信一, 小川智也 fibroticNSIP に対するステロイドパルス療法およびシクロスポリン+少量ステロイド療法の多面的評価 特発性肺線維症の予後改善を目指したサイクロスポリン+ステロイド療法ならびにNアセチルシステイン吸入療法に関する臨床研究 P. 73-79, 2007
45. 千住秀明 (司会), 植木純, 谷口博之, 津田徹[座談会]呼吸リハビリテーションの構築と普及—院内から在宅へ— 呼吸 26：430-440 2007
46. 谷口博之 間質性肺炎の呼吸管理の実際—酸素療法, 人工呼吸療法, 呼吸リハビリテーションについて— Medical Practice 24：1061-1064 2007
47. 近藤康博, 谷口博之, 長谷川隆一 ALI/ARDSの病態と治療 ALI/ARDSにおけるNPPV 呼吸と循環 55：635-640 2007
48. 長谷川隆一, 近藤康博, 谷口博之 呼吸器診療におけるリスクマネージメント 人工呼吸器 (3) 非侵襲的人工呼吸法におけるリスクマネージメント (挿管人工呼吸との使い分け) 呼吸 26：664-670 2007
49. 加藤景介, 谷口博之 薬剤性肺障害の臨床 抗リウマチ薬による肺障害 呼吸器科 12：134-138 2007
50. 近藤康博, 谷口博之, 長谷川隆一 人工呼吸管理をめぐって 急性呼吸不全における非侵襲的陽圧換気療法 呼吸と循環 55：1075-1081 2007
51. 谷口博之 新たな展開の線維症研究 間質性肺炎急性増悪の定義と新規治療対応 分子呼吸器病 11：314-319 2007
52. 小川智也, 渡辺文子, 有菌信一, 谷口博之, 近藤康博 代表的な疾患に対する呼吸リハビリテーション (3) 間質性肺炎 包括的呼吸リハビリテーション <2> 臨床編 2007
53. 渡辺文子, 小川智也, 有菌信一, 谷口博之 10. 在宅人工呼吸療法 (NPPV) と運動療法 包括的呼吸リハビリテーション <2> 臨床編 2007
54. 谷口博之 第III章 特発性間質性肺炎 2 その他の原因不明の間質性肺炎 呼吸器専門医テキスト (工藤 翔二, 中田 紘一郎, 永井厚志, 大田健/編) 南江堂 P. 426-432 2007
55. 谷口博之 肺線維症治療 治療学 40：1263-1268 2006
56. 杉野圭史, 本間 栄, 宮本 篤, 高谷久史, 坂本 晋, 川畑雅照, 岸 一馬, 坪井 永保, 吉村邦彦：肺結核と原発性肺癌合併症例の臨床的特徴と問題点の分析. 肺癌 47：97-103, 2007
57. 磯部和順, 高木啓吾, 秦 美暢, 濱中伸介, 清水邦彦, 木村一博, 笹本修一, 加藤信秀, 本間 栄：肺癌術後の再発診断におけるFDG-PETの有用性の検討. 日呼吸会誌 45：377-381, 2007
58. 杉野圭史, 長谷川千花子, 木村一博, 佐野 剛, 磯部和順, 渋谷和俊, 本間 栄：白血病に合併した侵襲性肺アスペルギルス症の臨床病理学的検討. 感染症誌 81：261-267, 2007
59. 磯部和順, 村岡 成, 杉野圭史, 山崎陽子, 菊池 直, 濱中伸介, 高井雄二郎, 清水邦彦, 木村一博, 廣井直樹, 渋谷和俊, 本間 栄：ポリコナゾールによる抗利尿ホルモン分泌異常症候群を認めた肺アスペルギルス症の1例. 日呼吸会誌 45：489-493, 2007
60. 磯部和順, 本間 栄：間質性肺炎の鑑別診断の進め方. Medical Practice 24：1031-1035, 2007.
61. 高橋実希, 本間 栄：関節リウマチと呼吸器. 呼吸器内科からみた関節リウマチの肺病変. 日胸 66：443-449, 2007
62. 本間 栄：NACによるIPF治療：抗酸化薬の効果と臨床試験. 分子呼吸器病 11：10-15, 2007
63. 本間 栄 (分担)：造血幹細胞移植後の呼吸器合併症. 呼吸器疾患最新の治療 2007-2009 (工藤翔二, 中田 紘一郎, 貫和敏博編) p 355-357. 南江堂, 東京, 2007

64. 本間 栄 (分担): 薬剤誘起性肺炎. 2007 今日の治療指針 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) p 225. 医学書院, 東京, 2007
65. 杉野圭史, 本間 栄 (分担): 副鼻腔気管支症候群. 別冊医学のあゆみ 呼吸器疾患—state of arts Ver. 5 (北村 諭, 工藤翔二, 石井芳樹編) p 468-470. 医歯薬出版, 東京, 2007
66. 本間 栄, 岸 一馬 (分担): 肺リンパ脈管筋腫症 (LAM). 呼吸器専門医テキスト (工藤翔二, 中田紘一郎, 永井厚志, 太田 健編) p 627-630. 南江堂, 東京, 2007
67. 宮本 篤, 本間 栄 (分担): 気管支内視鏡検査. 呼吸器専門医テキスト (工藤翔二, 中田紘一郎, 永井厚志, 太田 健編) p 102-106. 南江堂, 東京, 2007
68. 海老名雅仁: ゲフィチニブ (イレッサ) による薬剤性肺炎. (特集/薬剤性肺障害のすべて) 成人病と生活習慣病 37(3): 313-317, 2007.
69. 海老名雅仁: 特発性間質性肺炎の治療最前線 特発性間質性肺炎に期待される新治療. (特集 びまん性肺疾患—病態に基づいた最新治療) 内科 99(2): 南江堂 241-244, 2007.
70. 海老名雅仁, 五味和紀 サルコイドーシスの病院論における今日の問題点 呼吸器科 12: 473-478, 2007
71. 海老名雅仁: 薬剤性肺障害 (耳鼻科医が知っておきたい疾患の知識). JOHNS 23(3): 500-502, 2007.
72. 海老名雅仁: 間質性肺炎・トピックス 特発性間質性肺炎の新しい治療法の開発. Medical Practice 24(6): 1038-1040, 2007.
73. 海老名雅仁: 加齢・炎症による肺疾患: 胸部外科医に必要な内科的知識 胸部外科 60(10): 919-925, 2007.
74. 海老名雅仁: 薬剤性肺障害の臨床病型: 薬剤特異的か? 呼吸器科 12(2): 164-170, 2007.
75. 海老名雅仁: 講座 稀な呼吸器疾患 狭窄性細気管支炎 呼吸 26 巻 10 号, 938-943, 2007.
76. 海老名雅仁: 特集「間質性肺炎をめぐる最近の話題」間質性肺炎における血管病変の進展と対策制御 THE LUNG perspectives 15(4): 50-54 (444-448), 2007. メディカルレビュー社
77. 星川 康, 小林忠輝, 近藤 丘: 一般外科手術前のリスク判定と周術期対策—呼吸器系併存疾患, とくに慢性閉塞性肺疾患と術後呼吸器合併症について. 外科 69: 281-288, 2007
78. 岡田克典, 松村輔二, 星川 康, 大石 久, 野田雅史, 佐渡 哲, 石田 格, 星 史彦, 遠藤千顕, 宮本 彰, 保坂 智子, 新井川弘道, 海津慶子, 近藤 丘: 感染の問題からみたドナー肺評価—どこまで移植可能か. 胸部外科 60: 976-981, 2007

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患克服研究事業
びまん性肺疾患に関する調査研究班
平成 19 年度研究報告書

平成 20 年 3 月 5 日 印刷

平成 20 年 3 月 10 日 発行

発行所 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業
びまん性肺疾患に関する調査研究班
〒 980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1
東北大学大学院医学系研究科
内科病態学講座 呼吸器病態学分野
TEL 022-717-8539
FAX 022-717-8549

編集人 海老名 雅 仁

発行人 貫 和 敏 博

印刷所 笹氣出版印刷株式会社

〒 984-0011 仙台市若林区六丁の目西町 8-45
TEL 022-288-5555



この印刷物の本文は適切に育まれた森から生まれた FSC 認証紙と環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています。